



吉生の香取神社で 奉納ずもう

十一月二十三日、吉生の香取神社の祭礼が行われました。どこからともなく子どもたちが集まり、毎年恒例の奉納ずもうが始まりました。

香取神社の奉納ずもうは昭和十年代から二十年代が盛んで、当時は二十代の青年たちが中心となり、まわしを締めて行っていたそうです。昭和三十年になると、奉納ずもうの中心が完全に子どもになったそうです。次世代にもこのすばらしい伝統を引きついでいてもらいたいですね。

町民総ぐるみで青少年育成

青少年を育てる八郷町民の会発足

十一月十九日、青少年を育てる八郷町民の会設立総会が中央公民館で行われました。総会は、町内各種団体、機関からおよそ二百五十名が参加し、会則、事業計画、予算内容などについて討議、さらに役員の選出などが行われました。議案は原案のとおり可決、最後に大会宣言を拍手で採択し総会を閉じました。総会に参加されたみなさんは、午後に催された生涯学習のつどい文化講演会に参加、野球評論家西本聖氏の「自分を作るのは自分自身、そして一番大事なこととは自分を信じる」と題しての講演に耳を傾けました。



会長に上田久氏をはじめ本部役員が決まり、青少年育成組織として町民の会が動き出しました

活動の核づくり

茨城県における青少年健全育成の活動は、今から三十四年前に青少年育成茨城県民会議が設立されて以降、各市町村においても組織化がすすめられました。現在までに七十四の市町村が市町村民会議、育てる会などさまざまな名称で組織をつくり、青少年育成の運動が推進されてきました。

時代が移るとともに、青少年をとりまく環境は大きく変化してきました。過激な情報に氾濫し、多様化した価値観の中で、目標をみつけない現代社会。複雑な社会のひずみの中で暴発する青少年は後を絶ちません。青少年が関わった犯罪は、異常とも思える凶悪事件が増え、さらに低年齢化がすすむなど深刻な状況にあります。このような中、教育改革による完全学校週五日制が、平成十四年度から実施されます。子どもたちが学校を離れ、地域で活動する機会は確実に増えてきます。

町の将来を展望したとき、学校、家庭それを取りまく地域は、子供たちの健全育成のためにどのような関わり、サポートしていけばよいか考えなければならぬ時期にあります。町の未来を担う青少年を健全に育むための環境づくりに、

核となる組織を立ち上げ、町民総参加による育成活動をすすめていくことは、これから大きな意味をもつのではないのでしょうか。

町民の会設立に向け、具体的な動きは平成十年度から始まりました。まず十年度は各地区で説明会を開催、十一年度に区長説明会、十二年度に入って啓蒙チラシの全戸配布、さらに、各種団体の代表者を集めて数回にわたる検討会、準備会を行い、このほど総会を経て町民の会が正式に発足しました。

本部役員を選出

- ▽会長 上田久（県青少年育成推進指導員・根小屋）
- ▽副会長 潮田昌造（町PTA連絡協議会長・大増）
- ▽同 木崎広美（町青少年相談員連絡協議会代表・上青柳）
- ▽監事 市塚義則（町区長連合会長・片岡）
- ▽同 伊藤文夫（町学校長会長・小屋）
- ▽会計 神生賢一（県民会議理事・吉生）
- ▽同 本岡一衛（県青少年育成推進指導員・吉生）
- ▽幹事 桜井重夫（町子ども会育成連合会長・柿岡）
- ▽同 吉田郁夫（町生涯学習課）

〔敬称略〕

小学校区に支部

青少年を育てる八郷町民の会は、町全体を対象にした事業を行う本部組織の下に、町内十一の小学校区ごとの地域で、活動をしていく支部組織を設置します。

平成十二年度中は、それぞれの地域で支部設立に向けた準備作業や組織づくりをすすめ、平成十三年度に設立総会を開いて、本格的に支部の活動が展開できるような体制をつくります。

さらにこれらに併せて、支部単位で会員の募集（会費の徴収）をすすめていただきます。入会につ

いてはあくまで任意ですが、町民総ぐるみですめる活動であるという趣旨をご理解いただき、全戸加入を目標にしています。

会費の取り扱い

町民の会への入会費は、会の目的に賛同する個人・団体・機関が会費を納めて会員になります。

会員の会費は、年額一〇〇円（うち二〇円は本部会費を支部に納めます。また、特別な援助をする個人・団体は賛助会員として、一口年額三、〇〇〇円（口数制限なし）を本部に納めます。

活動のすすめ方

町民の会の組織体系は下図のようになっています。本部や支部の活動については、町の状況、またそれぞれの地域の実情を踏まえて、効果的な事業を計画・実践しながら活動を推進していきます。

本部や支部の事業例として、下図に示したような事業があります。が、あくまで活動に当たってはそれぞれの組織の中で話し合い、地域で実施可能な事業を計画・実践していくことになります。

大会宣言

これからの八郷町の構成員として青少年が心身ともに健全に成長することは、八郷町の未来を展望する上で重要な課題であり、町民すべての願いです。

また、青少年を健全な成長に導くことは町民にとって大きな責務だということはいうまでもありません。

今日、青少年をとりまく社会環境は、倫理観や価値観がさまざまに変化し経済優先、物と金

中心の考え方の中に埋没してしまったり、真の豊かさを形成する基軸としての機能を失っている状況です。

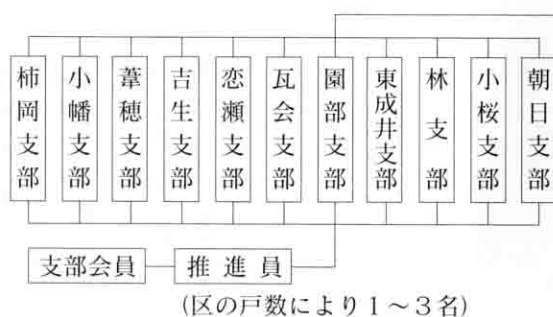
現在、各地でみられる青少年の問題行動や非行は、このような社会環境の中で当然起こり得る現象として発生しているものと思われまます。本町においても決して例外でなく、さまざまな問題行動や初発型非行といわれるものが、数多くみられるようになりました。

このときにあたり、わたしたちは青少年の健全育成を町民一人ひとりの問題として再認識し、明る

い家庭を築き、健やかな青少年を育てようとする町民の意識をさらに向上させ、家庭・学校・地域・機関・団体等がその機能を十分に発揮し相互に連携して、町民総ぐるみで活力ある運動を推進するため「青少年を育てる八郷町民の会」を設立し、地域に即した実践活動を推進していかねければなりません。

八郷町の青少年に夢を託し、町民の英知と情熱をもって、地域で人づくり運動を推進することをここに宣言する。

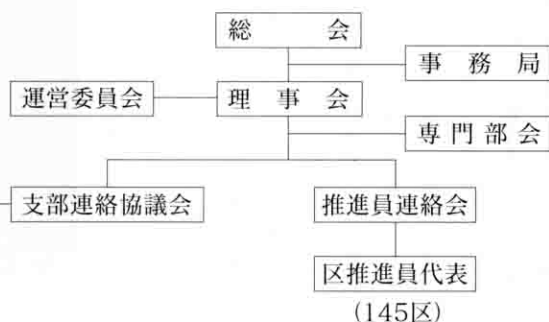
支部組織



【支部事業例】

- オアシス運動の実践
- 地域一声運動の実践
- クリーン作戦共同（学校・地域一斉）作業実践
- 花いっぱい運動の実践 地区の花壇づくり等
- 健康づくり運動の実践 歩く会、ラジオ体操等
- 自然体験の実践 田畑、山林、川等資源活用
- 遊び場づくり 集会所、神社仏閣、平地林活用
- ボランティア活動の実践 特技もつ大人の活用、中・高生リーダー育成による異年齢間交流

本部組織



【本部事業例】

- 啓発事業 チラシ作成、看板設置、講演会等
- 親子活動 レクリエーション大会、音楽会、演劇観賞、オアシス運動、親子話し合い等
- 非行化防止活動 街頭キャンペーン、パネル展示、懇談会等
- 環境浄化活動 有害自販機撤去活動等
- 少年育成活動 スポーツ大会、青年・子供議会
- 地域文化創造事業（伝統芸能・伝統行事）等

「自分を作るのは自分自身として一番大事なことは自分を信じる」という演題で野球評論家西本聖氏が講演をされました。投手現役時代、江川投手と巨人軍投手陣の二本柱として活躍、打者に向かって行く闘志あふれるピッチングでファンを湧かせた西本氏。不屈の精神力、根性はプロの世界でどのように培われたのか、興味深いお話に九十分という講演時間には短かく感じられました。内容の一部を紹介してみます。

自分の成長は

人との出会いから

プロ野球人生の二十年を振り返ってみますと、人との出会い、人との出会いによって、この西本は大きく成長することができたのではないかと思います。

二十年間の中で、自分は六人の監督の下でプレーさせてもらいました。その中で、今日は長嶋監督の話をしてみたいと思います。

みなさん長嶋監督といいますと、いろんなイメージを持たれているかと思いますが、あの長嶋監督が人を殴るというようなイメージを持たれる方はほとんどいないと思います。息子である一茂も殴ったことはないと思います。その長嶋監督に、プロに入って三年目、広島球場でゲームが終った後に監督室に呼ばれ、そして正座をさせられ、二十発ぐらい顔をぶん殴られたわけです。なんで長嶋監督が二十発も殴ったか。長嶋監督という

方は、とても逃げるのが嫌いな監督です。ですから、デビュー当時4三振、見逃しの4三振ではなく、振つての4三振。振らなければ絶対に当たらないという、逃げ

出会いを生かすには 素直な心をもつこと

講師 野球評論家 西本 聖

ることが嫌いな長嶋監督からしてみますと、プロに入って三年目、実績もない西本は、マウンドに立ってどういう気持ちで投げたのかといいますと、「もしここで打たれたらもう明日から一軍のマウンドに立ってない、もしここで打たれたらどうしよう。明日から二軍だ。だから打たれたくない。打たれたくない」そういう気持ちでマウンドに立って投げていたんじゃないかなと思います。ストライクはとれるけれども、もしそのストライ

クが甘く行つてヒット、ホームランされたらどうしよう、技術もないのにコースを狙つて行つてもストライクが入るわけはありません。結果的にどうなるかと言いますと、フォアボールを出す。フォアボールを出してピンチになればなるほど余計に自分の中でプレッシャーがかかる。もしここで打たれたら二点、三点取られる。だから打たれたくない。長嶋監督からしてみますと、なにか逃げていたようなそういう姿に見えたのではない

命を取られるのか。打たれたからといって命を取られるわけではないだろう。逃げるな向かつて行け」このようなことを言いながらおもしろいときり殴っていたわけです。

その時は、なぜこんなに殴るんだろうかと思いました。でも振り返ってみるとこの長嶋監督に殴られてよかったなと思います。もし殴られないでいたならば、おそらく西本はいつまでたつてもバッターに向かつていく姿は作れなかったのではないかと思います。ピンチに



なければなるほど逃げる、そういう姿であのマウンドに立っていたのではないか。そうして三年目でクビになつて、プロ野球を去つていく、そんなピッチャーになつていくんじゃないかと思っています。

長嶋監督に殴られ、次の登板から何を考えて投げたかと言いますと、絶対逃げちゃいけないんだ。打たれても打たれても絶対逃げちゃいけない。逃げる気持ちではなく攻める気持ち、そういう気持ちの中でマウンドに立って投げるこ

とができていったのではないかなという気がするわけです。

二十年間の中で、威張れる記録というのはそんなにありません。その中で、日本シリーズで二十九イニング無失点記録というものをもっています。この二十九イニング無失点記録、この中に自分の野球人生がすべて入っていると思います。また、昭和五十六年、日本ハム相手の試合のこの記録の中に毎回安打、十三安打を打たれての完封という記録を持っています。普通十三安打を打たれますと完封などできない。完投などできない。五回ももたないでマウンドを降ろされてしまいます。ペナントレースなら今日は捨てゲームだという中で投げさせてもらうこともあるでしょう。日本シリーズということとはとてもない。この十三安打、毎回安打の記録というのは、よく考えてみるといつもピンチの中でマウンドに立っている。もしあの時長嶋監督に殴られなかったら、このような記録は生まれません。「打たれても絶対に逃げない。次抑えればいいんだ。抑えるんだ。一点取られたからといって諦めない。打たれたからといって諦めない」という気持ちの中でマウンドに立って投げられたからこそ、このような素晴らしい記録が生まれたんじゃないかなと思います。

失敗を恐れな 勝負師の心学ぶ

失敗は成功のもとだといわれます。失敗してはじめて何かを得る。失敗するからこそ失敗した理由も分かる。たとえば、真ん中に投げたからといってヒット、ホームランされるのは限らない。ひよつとした見逃すかも分らない。空振りするかも分らない。打たれたなど思っても味方がファインプレーするか分らない。それも打たせてみないと、バットを振らせてみないと分らない。人生もそうだと思います。頭の中ばかりで考えても、何も前には進まない。確かに失敗を考えると、とても怖い。でも行動を取ってみてはじめてそれがいいのか悪いのか分かる。ここにコップがあります。このコップに飲み物を入れます。飲んでみないと味は分らない。頭の中ばかりで、あの飲み物は甘いんだ。甘くないんだと考えていても何年経っても答えは出てこない。飲んでみてはじめてその水がおいしいのか、おいしくないのか。食べ物もそうです。食べてみてはじめて分かる。食べてみて甘ければ、次どうしたらいいんだ。辛ければ、次どうしたらいいんだという答えは出てきます。人生もそうではな

いかなという気がするわけです。失敗を恐れると、いつまで経ってもいまの自分よりは前には進まない。失敗するからこそ得るものがあるのではないかと思います。やはり自分もいつまで逃げたつて、このバッターの長所短所は分らない。そういうことで長嶋監督は逃げて西本を見て、絶対このままでは西本は成長しない。プロとして一流にならない。どうにかして、逃げないで向かって行くピッチャーにしなければいけない。そういう思いの中で、殴るしかなかったのではないかと気がします。

長嶋監督と出会い、六年間の中で心技体の心、プロとして勝負師として一番大事な心というものを、長嶋監督にしっかりと教えられたのではないかと気がします。

長嶋監督との出会いというのはこの西本にとってみると、ほんとうに素晴らしい出会いをさせてもらったなという気がします。また、この出会いの中で、すごく感じることは、先程も言いましたように、素直な心が少しはあったからこそある面ではいい形になったのではないかと思います。なぜ殴るんだという気持ちもいつまでも持っていたならば、おそらく成長しなかったのではないかなという気がするわけです。

良きライバル 定岡との出会い

自分がジャイアンツに入った同年、定岡正二が入団しました。彼は甲子園で優勝しドラフト一位、自分は甲子園も行っていないドラフト外。プロに入ってはみんな同じスタートラインに立っているんだといわれても、その扱いの格差に、十八歳の西本は、惨めさと悔しさを味わいました。

人間はいかに悔しさを持つか。悔しさを持たない人間は成長しない。悔しさを持たない人間は、今の自分に満足する。今の自分に満足するということは、今の自分から成長することはあり得ない。西本は惨めな悔しい思いをすることによって、そして尊敬する定岡を良きライバルとし、そして「この定岡に勝つんだ。今自分には力はない。でもこれから一生懸命努力して、練習して定岡よりも早く一軍に行き、そしていい選手になるんだ」と思い、どんなに苦しい練習があっても絶対自分は一生懸命頑張るんだという大きな夢と目的を自分の中で作っていったわけです。人間というものは、悔しさをもち、悔しさを持ったならば次は何を持つか。大きな夢と目的をいかに持つかだと思います。人間は、

苦しく辛くなればなるほど樂をしたい。まして同じ苦しいことをするにしても、他人から言われると腹が立つ。「なんで俺はこんなことをしなければならんだ」でもそういうときに頑張る力は、この大きな夢と目的を持つていると引き出すことができます。

自分も惨めな悔しい思いをしなが、定岡をライバルとして、絶対に彼より早く一軍へ行つていい選手になるんだという大きな夢と目的をしっかりと持つていたわけです。

悔しきバネに

大きな夢と目的

練習でグラウンドを走る時、自分はほかの選手よりあえて苦しいポジションを選んで走りました。それでも人間ですから、今日ぐらいサボりたい。どんな素晴らしい人でも、今日ぐらいサボりたいという気持ちは持つてしょう。自分もそういう気持ちを持ちました。そういう時に、自分の中で、「もう二度とあのような惨めな悔しい思いはしたくないんだ。何のためにあえてこの苦しいポジションを走っているんだ。でもこの苦しい辛い練習を頑張れば、早く一軍に行ける。いい選手になれる。苦しく辛いけれども、いまこれを頑張れば絶対に定岡を抜けるんだ」

そう問かけると、人間というのは、何も腹が立つことはない。でも苦しく辛いことも他人にいわれますと、とても腹が立つ。また大きな夢と目的がないと、「なんのために俺はこんなことをしなければならぬのか」という気持ちになるのもまた人間です。

これはどの世界でも同じことが言えると思います。会社に入社した時には、それぞれ大きな夢を持つてしょう。でも時が経つていけば、夢と目的というものがだんだん薄れて行く、でも頑張っている人というのは、その夢と目的というものは絶対失わないと思います。

自分は子どもが三人います。子をもつてはじめて親の気持ちが分かる。やはり親というのは、この子のためという大きな夢と目的があるからこそ、苦しくても、辛くても寝なくても一生懸命頑張ることができるといふやないかなという気がします。人間は苦しく辛いときに頑張るからこそ、その中で得るものが大きい。頑張る者には頑張っただけのものを与えてもらえます。それを考えますと、いかに大きな夢と目的をしつかり持つて、持てば持つほど人間の持つてくる素晴らしい力を、他人が引き出すのではなく、自分の中で引き出すことができるのではないかと気がします。

→木魚ってたたくとどんな音?



↑見て背中の中がかわいいでしょう。



↑みんな宙に浮いているよ。

エスティバル



↑おじさんがお手本見せるよ。



↑これほしい人ー。

十一月十二日、八郷町子どもフェスティバルが八郷町役場前駐車場を会場に行われました。メインとなるステージでは大縄跳び大会や大道芸、南中吹奏楽部の演奏、小幡おはやし、マジック、そして子どもたちに人気のビンゴ大会が行われました。会場は終日たくさんのお子で賑わいました。あちらこちらから絶え間ない笑い声が響き合っていました。



←うまいもんでしよう。



→お母さんボクの代わりに釣って

足尾山麓の葦穂猪内集落に長楽寺と言う寺がありました。今はその堂宇はなく寺にまつわる天狗の話だけが残されています。長楽寺は修験寺であったのか、そこに老母とその子である若者が住んでいました。若者は昼間は家にあつて農作業のかたわら、老母に仕えて孝養につとめ、夜になると近くの足尾山、加波山から筑波山の方面まで踏破して修業を怠りませんでした。ある夏のこと、暑かった日も暮れた六月十四日(旧暦)の晩、老母は若者に語りかけました。

八郷の昔話

長楽寺の天狗



広報やさと十一月号P7 猪内の薬師堂に関連して長楽寺の天狗の話を紹介しましたが、内容を省略したのでは後世に正しく伝わらないのではないかとこの指摘がありました。ここにあらためて八郷町誌に収録されている長楽寺の天狗の話を紹介します。なお、今後機会をみつけて八郷の伝説として残る話をいつか掲載していきたいと考えています。

「わしも、お前がよくしてくれるので何の苦労もない、このまゝいっつお迎えがあつてもうらみはないが、欲を言えば日本一の祇園だという明日の津島の祇園(愛知県津島の船祭を見物したいと思うが、津島というところは唐、天竺(中国、インド)へ行くほど遠いというから、諦めるほかはないね」となかば笑談をいきました。若者はしばらく考えていましたが、「お母さん、津島はそう遠くはないよ。今から出かければ夜の明けるころまでには着くから行って来ましょ」とすすんで行くことになりました。



↑いくら焼いても足りないよ。



↑おかさん、買ってもいい？



↑ねらいを定めて、えいっ。



↑あったー。



↑ビンゴー。



↑ビンゴにはこんなにたくさんの人が。。



↑竹笛、じょうずにふけるかな。

第4回

子どもフ

若者は、白い行衣（修行に歩くときに着る着物）を着て老母を背負い、目がまわると困るからといって老母に手拭いで目かくしをして出かけました。老母は若者が、またわたしをからかい半分に、その辺を歩くのだらうと考えて、背にしがみついていた。そのうちに眠ってしまったのか、何もわからなくなっていました。

「さあ着いた」と若者がいうので、目をさますと、老母は目の前の光景に驚きました。

今まで話にはきいても見たことがない広い広い海、その浜辺に集まっている何十隻とも知れぬ大船小船が、青・赤色とりどりの旗をひるがえし、勇ましい笛太鼓のはやし、それを見物する人たちが浜に群れて、その賑やかなこと、老母にはまったく夢でありました。その日も暮れ、老母はまた目かくしをされて若者の背に乗ったが、いつの間にか眠ってしまった、どこをどうして帰ったか知らない。気がつくとも朝日が一ぱいに射している長楽寺の庭でした。若者もさすがに疲れたと見え、「お母さんわしは今日一日ゆつくり寝るから部屋へは決して来ないでくれ」とそのまま奥に入り、昼になり、

夕刻になっても起きて来ない。

心配した老母は、来てはいけないといわれた奥の仕切りをそっと開けて見ると驚きました。大の字になって高いびきをかいている若者の肩から、大きな羽根が座敷一ぱいに広がっていて、天狗そのままでの姿でした。若者は、がばっと起き上がり、腰を抜かしている老母に、「お母さん、あれほと言ったのに見ましたね。もうお目にかかりません」というより早く見えなくなっていました。

岩間の愛宕様の霜月（十一月）十四日の悪態祭り。深夜の丑の刻、無言の行に入る前に、恒例どおり身を清めた十二人の若者が奥の院に鎮座する十二天狗に、一膳づつの神饌（神に供える酒や食物）を、供え終わったとき、奥の院から、「長楽寺が足りない」との声があらりました。驚いた神主は、さらに一膳を供え十三膳として無事祭りは終わったといえます。これは猪内の長楽寺の若者が、天狗となつて家出をし、愛宕山奥の院の十二天狗の仲間に加わったのであろうと伝えられています。

今でも何かの振舞のとき、膳部が足りない場合「こが長楽寺だ」と言うと、この辺の人（年配の方ではあるが）は、一膳不足して

八郷駅伝競走大会

49チームが自慢の健脚競う

十一月二十六日に八郷駅伝競走大会が行われました。八郷駅伝も今年で十四回目を迎え、男女あわせて四十九チームの参加がありました。男女ともに中央公民館を発売とし、男子は葦穂小学校下を通り、善光寺入口を折り返してから下青柳入口まで走り、そこで折り返してゴールの三十・六キロコース、女子は北郷入口を通り、下青柳入口を折り返してゴールの十七・六キロコースでした。当日は天気もよく、ランナーにとっては絶好のマラソン日和となりました。参加した人たちは暖かい日差しを受けながら、それぞれのコースを走り抜きました。



一般男子の部

- ①おおいだR・T A 1時間51分30秒
(小泉一幸・小村幸一・須磨充俊・比
氣龍司・浅野寛・廣内慎一・野沢宗嗣
大塚貴夫) ②園部ランナース 1時間
57分26秒 ③八郷ランナース A 1時間
57分49秒

一般女子の部

- ①鶴亀走友会 1時間31分14秒(金子
慶子・市塚昌子・紀明美・新田光子・
幡谷理恵子・三輪めぐみ・上川真澄・
山崎佐千子)

高校男子の部

- ①TEAM2000 1時間48分41秒
(渡辺淳・萩谷考・高野柘郎・長谷川
慎・酒井亮・小松崎慎行・葛竈貴功・
竹澤幸太) ②八郷高校 2時間15分34
秒

中学男子の部

- ①園部中A(選抜) 1時間53分15秒
(長谷川一輝・鶴井佑樹・古矢祐樹・
田山竜也・山田一貴・山田真人・真家

- 浩彰・伊藤正孝 ②柿中サッカ
1部 1時間58分32秒 ③八郷南
中 2時間37秒

中学女子の部

- ①園部中A(バスケ部) 1時
間14分38秒(本多麻希・武田久
美子・大槻美佳・大岡倫代・荒
井美貴・木村きよみ・木村晃子・
館菜奈美) ②柿岡中バスケ部
A 1時間18分42秒 ③有明中
1時間19分36秒

区間新記録賞

- 【一般男子の部】
第一区 真家智行(園部ランナース)
12分54秒
橋本健一(八郷ランナースB)
12分58秒

- 第六区 廣内慎一(おおいだR・T A)
15分11秒

【一般女子の部】

- 第一区 金子慶子(鶴亀走友会)
13分31秒

- 第三区 紀明美(鶴亀走友会)
6分40秒

- 第四区 新田光子(鶴亀走友会)
12分16秒

- 第五区 幡谷理恵子(鶴亀走友会)
11分10秒

- 第六区 三輪めぐみ(鶴亀走友会)
6分22秒

【高校男子の部】

- 第一区 渡辺淳(Team2000)



- 第六区 小松崎慎行(Team2000)
12分10秒

- 第七区 葛竈貴功(Team2000)
10分32秒

- 第八区 竹澤幸太(Team2000)
9分41秒

【中学男子の部】

- 第一区 長谷川一輝(園部中A 選抜)
13分51秒

- 桜井浩司(柿岡中サッカー部)
14分01秒

- 第三区 松下慎吾(柿岡中サッカー部)
9分52秒

- 第四区 古矢祐樹(園部中A 選抜)
10分27秒

- 第五区 田山竜也(園部中A 選抜)
15分37秒

- 第六区 山田一貴(園部中A 選抜)
14分54秒

(敬称略)

子どもたちに伝えたい昔ながらの風景を

片野在住の関祐一さん(35)、悦子さん(35)夫婦が、このほど表彰を受けました。最初は悦子さんが、十月十四日に開かれた静岡県の「大井川・長島ダム湖底フェスティバル二〇〇〇」のイベントに合わせて全国から公募した童謡歌詞四百八十九通の中から最優秀賞に選ばれました。詩のタイトルは「夕暮れ時」で、この詩に曲がつけられ、同フェスティバルの中でソプラノ歌手の島田祐子氏による歌が披露されました。

「入選の電話がかかってきた時は、驚きました。フェスティバルに招待してくれるという話でしたが、気が動転して一度は断ってしまったんです」と悦子さん。詩について何うと、「主人と一緒に自分たちの幼かったころを思い出しながら書きました。今、その思い出の場所がなくなりつつあります。田んぼのあぜ道など、今では探さなくては見つからないですね。そんな昔ながらの風景を子どもたちにも見せたい気持ちと、それが消えてしまったさみしさを詩にしました」と話してくれました。

また、祐一さんは、十一月一日、湖国二十一世紀記念事業協会主催の「水といのちのアイディアコンクール」一般の部で入賞、ふるさと再生賞に選ばれました。アイディアの名前は「甦れ故郷・わが町自慢の水風景」で、なくしてしまつた昔ながらの水



関さん夫婦

風景を甦らせて、生き物が生息する環境を保護し、子どもたちに触れさせ、豊かな心を育てるという内容です。祐一さんは「昔のように子どもたちと一緒にメダカを追ったり、螢を眺めたりしたいと願っています」と語ってくれました。

大井川・長島ダム

「湖底フェスティバル二〇〇〇」

二十一世紀に語りつぐ

ふるさとの水・こころの歌

童謡歌詞募集最優秀作品

「夕暮れ時」 作詞 関 悦子

夕暮れ時は 遊び時

時を忘れて かくれんぼ

誰かの母さん迎えにくれば

みんなそれぞれ 帰り道

あの予らどこへ いったのか?

記憶の中でもかくれんぼ

夕暮れ時は散歩時

父と歩いた 田んぼ道

青田に映る 影の丈

「いつかは越えろ」と 父が言う

あの道どこへ いったのか?

いつか我が子と 歩きたい

夕暮れ時は 涙時

ひぐらし「泣けよ」と 誘う時

畑で手を振る 母を見て

走って大泣き してみせる

あの頃どこへ いったのか?

空の彼方へ 消えたのか

あの頃どこへ いったのか?

空の彼方へ 消えたのか 消えたのか

花と緑の楽園



茨城県

フラワーパーク

バラの春剪定の仕方



春の剪定の目的は、伸びすぎた枝や細い枝、または古い枝などを整理することで芽数を減らし、残った芽に前年に蓄えた養分を集中させて、よい花を咲かせるために行います。また、枝数を整理することで、株に対する日当たりや風通しをよくし、病害虫の発生を軽減するのも目的の一つです。

剪定期間は、二月ごろ行います。剪定の仕方は基本的に前年に伸びた新しい太い枝(徒長枝、バラではシュートという)が数本でていれば、古い枝は株元から切り、シュートと切り替え、それが今年の主枝となるのが理想です。シュートも、太くて固

くしまった枝を上から見、ある程度間隔があくようにし、たくさんでている場合は、三、五本ぐらいにします。そして、切る高さはその枝の三分の一ぐらい残して切ります。しかし、シュートが一、二本しか出ていないとか、一本も出ていないという株は、多少細い枝や古い枝を残して、高さも全体の三分の一から半分ぐらいの高さに切ります。春剪定は秋剪定と違い、少し切りすぎたかなと思うくらい深めに切りつめても心配ありません。逆に、そのおかげで樹勢が強くなり、立派な花が咲いてくれます。

園芸課 佐藤 誠

惜しまれる名木『有明の松』

師走に入り、いよいよ二十世紀も終焉を迎えるに当たり、今回は惜しまれながら今世紀に姿を消して行った『有明の松』にスポットを当ててみた。

の松』にはどのような歴史的背景が潜んでいたのか、在りし日の名松を偲んで頂ければありがたい。

『有明の松』の由来は南北朝時代にさかのぼる。元中四年(一三八八年)

「……………松の緑のさながらに有明その名ぞ 吾等の母校」(作詞吉田次郎氏) 是有明中学校校歌の一節であるが、巨松の枝を揺らす松籟の音や四辺の風光に和した優美な姿も今は記憶のひだの中に僅かに残るのみとなった。瓦谷宿を出て高原の道を進むと左手に有明中学校が立ち、坂を下った中戸集落入口の小高い塚の上にこの樹は威容を誇っていた。跡には昔日の面影はなく、先代の実生から育苗された後継木が保存会の手によって植えられている。県道に面して、立ち枯れた名松を惜しむかのように説明版が立てられ、『有明

から五年にかけた難台山城の合戦で敵に包囲され食尽きた落城前後、籠城していた南朝方の婦女子が敵の追手を逃れようと、手足を血まみれにして山を下り、ようやく平地にたどり着いた。ほっとして道沿いの大きな松の下で一休みした時、夜明けを迎え、曙光に輝く明け方の空を眺めながら、自らの行く先もこの松のように長くたくましくありたいと願い、『有明の松』と名付けて立ち去ったといわれる。以上が『有明の松』の伝説であり、この合戦は難台山に立てこもった小田五郎藤綱や小山若丸と足利方の佐



所在地 大字中戸字有明
幹周 3.1m
樹高 18m
樹齢 300年

竹軍との戦いを指し、くだんの伝説は若丸と家族が逃げ去るときの出

来事ではなかろうかと言われている。難台山を背景に、筑波・足尾・加波の山並みを正面に見晴るかす景勝の地に聳え、樹相気品に富んだ名松に、是非とも県指定のお墨付きを頂きたいと町や地元が働きかけ、昭和四十一年三月七日に県の天然記念物に指定されたが、惜しくも昭和五十五年にマツクイムシの猛威にさらされ枯死し伐採された。

昭和五十五年三月二十五日に放映されたNHK番組『森が死んでいる』から『樹齢四〇〇年の松が枯れようとしています』とナレーションが流れる。避雷針や消毒用スプリンクラ―まで設置して懸命に行った延命処置にも関わらず、チェーンソーがうなる中で無残にも伐り倒される巨木と呆然と見守る人々の様子が写し出されている。

『確か樹齢は三四〇〜五〇年で多分二代目の松でしょう。』と保存会の浅野恒雄さんは話されるが、伝説に出てくる松は年代から見てもどうやらこの松ではないようである。

『集落に結婚式があると、枝もらい、それで高砂の松を作り式を挙げたものです……………』浅野夫人は当時を懐かしむ。中戸区民がこぞつて愛でた名松も、今となっては写真に面影を留めるのみとなった。

(主幹の一部が八郷町森林組合に保管されています)

八郷町社会教育指導員 小林文男

●最近気になる病気

「発熱」

石岡市医師会病院

小児科 松本由美医師



なぜ熱は出るのでしょうか。

一番多い原因は、風邪をひいたため、つまり感染症です。人間の体は、風邪の元となるウイルスや細菌が侵入すると、体温のセトポイントを高いうちにセツトし、その温度に向かつて体温を上げていきます。そして、その高い体温の下で体は風邪の元と戦うのです。解熱剤でむりやり熱を下げてしまうと、病気の期間が長くなってしまふ可能性があります。熱が出たら熱を下げなければいけない、というような考え方はやめましょう。

熱が上がるときは寒いときのように皮膚の血管は収縮し、手足は冷たくなり、ときには紫色になるところもあります。熱が上がりきり、そして下がろうとするときは、暑いときのように皮膚血管の拡張が起こり、手足は暖かくなり、発汗が起こり、熱を体の外に発散させて新しくセツトされた体温まで下がります。(主幹の一部が八郷町森林組合に保管されています)

重病に伴った熱もあります。泣き声が弱々しい。泣いている

というよりは、うめいている。うとうとしていて眠っているのか、起きていてのか分からない。顔色が蒼白であったり、皮膚の色がまだら色である。そとへ連れて出て

も全く周囲への関心を示さない。ミルクをやってもほとんど吸わない。目の動きがない。手足がだらりとしている。これらは、髄膜炎等の重病に伴った発熱のときの症状です。熱の出始めから、このような症状が出てしまふこともありますし、最初は普通の風邪だったのに、途中から重病になってくることもあります。このようなときは熱を下げることを考える前に至急医療機関を受診しましょう。その他、生後三か月以前の発熱は重病である可能性が高いので、早く病院へ行きましょう。

わが国では昔から頭を冷やす習慣がありますが、この方法は気持ちが良いという利点はあっても、冷却する面積は小さく解熱効果は少ないです。やはりまず薄着にすることから始めたほうが良いでしょう。



崩れやすい太田桜本

八郷の地名 (9)

危険なカキ・クリ・サル・カマ

八郷町に約五千点ほどの小字地名があるが、その中の多くは地形を表現した地名である。十一月号でも述べたように、その地名がすぐに理解できないものあれば、まったく理解のできない地名もある。そうした地名の中から危険な場所に付けた地名のいくつかを述べてみたいと思う。

急斜面・崖・湿地・氾濫地・谷などには、生活の場や田畑として不適切な場所がかなりある。そんな場所を示す地名の付け方は直接的な表現で示す場合と、文字に意味が隠されている場合とがある。

例えば、崩壊地形の崩れ易い崖など

の地名に、カキ・クリ・サル・カマ・ママなどを柿、栗、猿、釜、俣などの当て字を使っている。カキは柿、陰、欠、掛・揚などの当て字に置き換えられて使われ青田柿木・小幡揚作・小見欠下など十七の地域に二十四ヶ処点在している。その場所に立つと住宅地には危険な場所とか、台風などでは崩れ易い処であることが一目で解る。小幡十三塚の柿部山は集落上の道路右に鳥居のある処で、左側は急斜面の崖である。台風などでは崖崩れのおき易い場所である。猪内のカケナイダは集落脇の谷津出口の斜面の田で大雨では流されそうな田である。どここの場所も崩れ易い危険な処を意味する。

同じ様にサル・クリ・カマなどもほとんどどの集落に点在している。いずれも危険を暗示する地名である。こうした地名は百数十ヶ処が点在している。

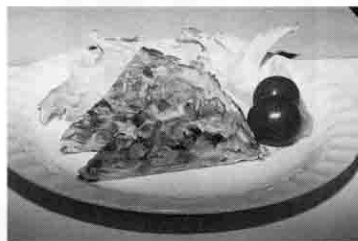
一方、文字に意味が隠されている地名は危険であるか否かが解らない。太田桜本・瓦谷楚町・小見須賀・下林鷲山・柿岡佐智満久・小屋芋稲・上青柳舎久地・スウメキ・小幡地蔵剣岨・鯨岡耳山・山崎鳴神・浦須割目無・嘉良寿理市久保・柴間俣田・吉生アカボツケ・大増五十峰・瓦谷洞井・真家喜浦沢等々八郷町全体では三百数十ヶ処に点在している。

これらの場所は山地の急斜面であつたり、台地端の崖であつたり、底のない湿地であつたりと生活の場には不適切な処である。今は土地改良や住宅団地の造成で、危険を暗示する小字地名が無視されるようになったが、もう一度周りの地名を振り返るのはいかがでしょうか。

元茨城県立歴史館学芸部長 関 肇

わたしの手料理

スペイン風 納豆オムレツ



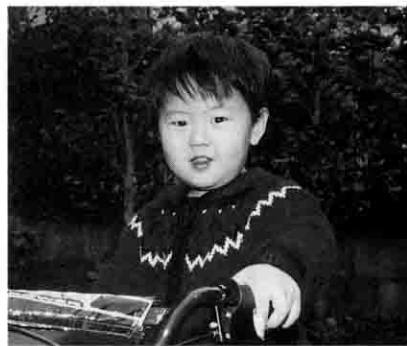
食生活改善推進員 関 野 育さん (柿岡)
(ヘルスメイト)

【材料】 (4人分)

○大粒納豆 80g ○卵 4ヶ ○じゃがいも 1ヶ ○たまねぎ 1/2ヶ ○生ハム 50g
○ほうれん草 1/2輪 ○塩・こしょう・オリーブ油

【作り方】

①じゃがいもは2mm厚さのいちよう切りにして水にさらし、水気を切る。玉ねぎと生ハムは1cm角に切る。ほうれん草はゆでて水にとり、水をしばって2cm長さのざく切りにする。②ボールに卵を割りほぐし、納豆、生ハム、ほうれん草、塩小さじ1/4、こしょう少々を加えてよく混ぜておく。③フライパンにオリーブオイル大さじ2を温め、じゃがいもと玉ねぎを炒める。②を一気に流し入れ、弱めの中火にしてふたをし、片面が焼き固まるまで5〜6分焼く。ふたをしたままフライパンを裏返し、ふたの方にオムレツをのせ、そのままフライパンにすべらせるようにして移す。ふたをしないで焼き色がつくまで2分間焼いてできあがり。



わが家のアイドル

下林

下野 晃大ちゃん
あきひろ

平成9年10月10日生まれ

父 直樹さん 母 和美さん

♥家族からの一言

おっとりとした男の子です。家の中では積み木やブロック遊びに夢中です。最近のお気に入りはおじいちゃんとおばあちゃんからの誕生日プレゼントの自転車で、毎日乗る練習をしています。元気で明るい子に育ってほしいですね。



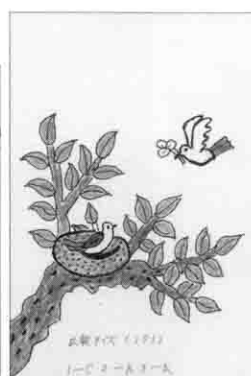
吉生 菊地 紘美



P.N 聖樹愛華



P.N 樺 みつな



月岡 萩原志づ



P.N くるた族



わたしも一言

赤

い座布団のことについて広報十月号に載っていましたが、私は個人的に続けていってほしいと思います。時々自分の親の歳を忘れてしまう私にとって八十歳からいただく座布団は、年輪のようなものです。毎年、座布団の数を数えながら親の敬老を祝ってあげようと思います。

瓦谷 鈴木 三枝

敬

老の日に町からいただく座布団の件ですが、今は長生きの時代でもあります。八郷町も八十歳以上の方がたくさんいます。座布団を楽しみにしているお年寄りの方もいるでしょうが、ある市町村では八十八歳に座布団を渡しているようです。座布団は八

習字コーナー

評玄潮会理事 森浩亭

柿岡小六年 吉田有里 林小三年 飯塚晃平

変線の化の
小六 吉田有里

自然な流れに乗せて清らかに書いた作品です。

冬た
飯塚晃平

厚みのある線で、勢いよく書けた作品です。

言葉の履歴書

鏡開き

「かがみは光の反射を利用して、姿や形を映して見る道具。語源としては、光の赫（あざ）やきを見る「赫見」の意、あるいはものの面影を見る「影見」の転とする説があります。青銅など金属製のかがみ（鏡・鑑）は、中国から渡米したもの。「鏡」は竟（ものの姿形）を映す金属器を指し、古くは金属の監（水

の入った盤）をのぞく「鑑」が使われました。ガラスを用いた鏡がヨーロッパで普及したのは、十七世紀以降のことです。日本では古代から「鏡は神の正体」として神社の御神体とされ、神聖な祭具となってきました。「知恵の鏡」は知恵のすぐれたことを鏡に例えた表現。また「昔は今の鏡」といえば、歴史上の出来事が、現代でもお手本となる意味に用いられます。鏡のように円い大小の餅を重ねた「鏡餅」は、新年用の「お供え」。江戸時代から正月二十日（のち十日）には、鏡餅を割って雑煮や汁粉にして食べました。「割る」の忌言葉「開く」を使う「鏡開き」の風習は、今も使われています。

全問正解者のなかから
抽選で図書券が当たるよ

広報クイズ 153

3つの答えの中から正解を選び
ハガキに書いて送ってください。

①教育改革による完全学校週5日
制は平成何年度から実施に？

- (A) 13年度
(B) 14年度
(C) 15年度

②文化講演会で講演をした西本聖
氏の現役時代のポジションは？

- (A) 3塁手 (B) 捕手 (C) 投手

③平成12年度の八郷駅伝競走大
会は何回目でしたか？

- (A) 14回目 (B) 16回目 (C) 18回目

【応募の方法】

☆ハガキに広報クイズ153と書
き、答えの記号(例1-A)、住所、
氏名、年齢、世帯主と「私もひと
こと」へのご意見や広報の感想な
どを書いて送ってください。イラ
ストやマンガも大歓迎。

☆全問正解者の中から10人に、
図書券をプレゼントします。

☆締切日 平成13年1月22日
(当日消印有効)

☆応募先 〒315-0195 八郷町柿
岡5680-1 八郷町役場秘書広聴課

☆当選者の発表 本紙 2月号

【広報クイズ151の当選者の発表】

正解は1-C、2-A、3-Aでした。

応募総数38通、正解37通の中か
ら次の10人が当選しました。

奥村友香(山崎) 桜井一郎(下
林) 竹熊比佐子(下林) 友部奈津
美(太田) 成田恵理(小幡) 仁平
洋子(小幡) 萩原志づ(月岡) 菱
沼知美(月岡) 山口節子(上林)
山中和(片野) [敬称略]



P.N 奈月 佐久羅



P.N 峰 咲 かなめ



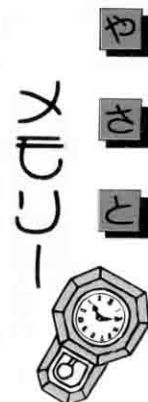
P.N オセロ

●やさと文芸

俚 謡		俳 句		短 歌	
春にや蝶々に口づけされた想いもある老いた花	柿岡 木村 流水	晴れてよし雨の紅葉も美しく 湯けむりに粧ふ山々ゆりの郷 一礼す教へくれたる紅葉みち	瓦谷 鈴木 浦子 柿岡 木村 流水 瓦谷 萩原 梨郷	晩秋へ誘う雨の降り止みて白き浜菊浮かび上がりぬ 山崎 荒井 幸子 検診の結果は否とあり家族等に心配かける年となりたり	吉田 次郎 選 月岡 萩原 照子 綿引 鼓峰 選
濡れて艶増す真赤な紅葉燃えて裸になる運命	下林 大山 恒 泉				
味は如何と気配り乍ら載せるお膳の嫁の出来	柿岡 鈴木 千代子				



昭和六十年一月二十六日に八郷
町合併三十周年記念式典が行われ
町内外から約六百名の招待客が集
まりました。町の発展を祈念して
の万歳三唱の様子です。



「まち」の話題で「き」ごと

身近な出来事や地元の話題をおよせください
(連絡先・秘書広聴課内線二三四三)

秋の勲章

勲五等双光旭日章 綿引東さん(75) 県石岡地区 保護司会会長



「菊の香や勲章勲記賜りて 鼓峰」

十一月三日付けで発表された秋の叙勲で、片野の綿引東さんが勲五等双光旭日章を受章しました。前にあげた句は綿引さん本人が受章の喜びを歌ったものです。

綿引さんは、保護司として三十九年間、罪を犯した人の社会復帰に尽力されてきました。

綿引さんは今から十三年前までは、小坂郵便局長を勤める傍らでの保護司でした。「職場は人の出入りが多かったので、本人のプライバシーを守るうえで、やりやすい環境でした」と当時を振り返り、「相手の心をほぐすには、身構えてはいけませんね。ざつくばらん話をし

ながら長所をほめて、そして話の中で法を守ることの大切さを教えてあげるんです」と穏やかな表情で話す綿引さん。一方、これまで一番苦労したのは覚せい剤受犯者の更生だということで、「覚せい剤は、身を滅ぼし、家庭、日本を滅ぼすことを声上げて言いたいです」と真剣な表情で語りました。

今回の受章については、「ありがたいことです。郵便局職員の皆さんの協力と保護司会の会員の皆さんの協力があつたおかげです」と謙虚に喜び、「これからは趣味の俳句に力を入れ、余生をのんびり暮らしたいですね」と語ってくれました。

山寺やすらぎの会の写経を供養

十一月十九日、瓦谷の定光寺で、写経供養会が行われました。これは、「山寺やすらぎの会」の会員の皆さんが、一年間に納めた写経を供養し、定光寺の御本堂に感謝しようと開かれたもの。「山寺やすらぎの会」は一年前、中戸在住の僧侶である秋本了典さんが、写経の会を開きたいということから、瓦谷郵便局局長の

谷島洋司さんの仲介で、無住職の定光寺本堂を利用して始まった会です。

「定光寺は、古くは寺小屋や、村の相談的な存在でした。このお寺を復活させようと考えています。そして、子どもから老人までが交流できる場所になってくれたらと思いますね」と谷島洋司さんは話してくれました。



統計調査に関する

平成十二年度各省市
大臣等表彰等受賞者

○植竹公(上置) 総務庁長官表彰
「労働力調査」

○富田忠久(下林) 農林水産大臣
表彰 二〇〇〇年世界農林セン
サス

叙勲受賞者

故 吉田仁さん(柿岡) 元八郷町
立柿岡中学校長
勲五等瑞宝章
菊地茂さん(東成井) 元八郷町立
吉生小学校長
勲五等瑞宝章

平成十二年度国民年金 事業功労者

社会保険庁長官表彰
弓弦第二地区納税貯蓄組合
(組合長 関良雄)
茨城県国民年金協議会長表彰
西原一国民年金納入組合
(組合長 千葉照夫)

四十年ぶり大増のどんと焼

十一月十八日、大増多目的センター付近空き地で、大増地区の伝統行事「山の神」が四十年ぶりに復活しました。

「山の神」は別名どんと焼とも呼ばれ、立ち木を伐り出して、中心となる柱（御神木）とし、そしてその木の周りに生木の枝や竹を飾りつけ火を放つという、大変豪快なお祭りです。この祭りを通して、大増地区を開く大きな山々の恵みに感謝をし、燃え上がる炎で体を暖め、無病息災を祈るそうです。

「昔は子どもの祭りだったんだよ」と地元岡本久さん。「小学校から帰ると、村のがき大将が中心になって、十五、六



人は集まったかな。一か月も前から山に行って、杉やひのきを伐り、枝を落として一か所に集めたもんだ」と当時を懐かしんでいました。四十年前までは、神が奉つてある山の中で行われていたように、不思議にも山火事になったことがないそうです。

日も沈み、あたりが薄暗くなると、御神木に火が放たれ、火は勢いよく燃え上がりました。一目見ようと集まった見物者の中からは、昔を思い出したのか、威勢のよいかけ声があがり、あたりに響き渡りました。

宮内庁に大玉富有柿を献上

毎年恒例の皇室に献上する「富有柿」の選定が、十一月十六日に役場一階会議室で行われました。

八郷町の富有柿の献上は、昭和三十年に献上を宮内省に願ひ出て、許可されたのが始まりです。甘柿の栽培としては八郷町が北限となります。柿の献上は八郷町のほかに福島県、佐賀県、静岡県の四県で行っています。

今年は真家初男さん（真家）、久保田守さん（山崎）、千葉秀男さん（真家）、本多敏治さん（真家）の四農家が献上の担当でした。八郷町の柿の献上は、園部

が二年、小幡・上曾が一年と、持ち回りで行っています。献上柿は、木を限定し、色合いをよくするために柿の周りの葉を取って日光を全面に当てるなど、一般の木以上に気を使って管理するそうです。今年の富有柿は、十月に降った雨のおかげで、大玉になり、昼と夜の気温に較差があつたため、糖度も高くなり、生産者の皆さんもほっと肩をなでおろしていました。

献上柿は十一月十七日に町長、生産者四名、町柿振興協議会長、町職員らが役場を出発し、宮内庁に届けられました。



訂正とお詫び

広報十一月号七ページ右上の写真の猪内の薬師堂は佐久の大杉の誤りです。十一ページ八郷の地名の文中下段（国有地・地磁気観測所は（国有地・文部省）の誤りです。訂正してお詫びいたします。



二〇〇〇年が終ろうとしています。年が明ければいよいよ二十一世紀になるわけです。

さて、千年紀というスパンで考えると、千年紀の初めころは、紫式部や清少納言などが十二単衣を着て、しずしずと歩いていました。しかし、たとえ優秀な女流作家たちでも、千年先の社会など考えもしなかったでしょう。長寿社会といわれている今でさえ、百年先を見ることはたいへんなこと。寿命が今の半分にも満たなかった時代、とても千年先の予想など……。千年紀の終りをわれわれは歩いています。同じように千年先の社会など想像もつきません。しかしこれから医学の進歩で、寿命は百歳を超えるでしょう。せめて百年の人生設計は必要かも知れません。国家はもっと先までです。（市）

公 民 館 ま つ り

講座や同好会が一年の成果を発表

十二月二日と三日の二日間、第十八回公民館まつりが中央公民館を会場に行われました。その前日には、同好会「八郷SDC」の皆さんによる前夜祭ダンスパーティーが同会場で行われ、公民館まつりの始まりに景気をつけてくれました。

二日は講座室で講座や同好会の作品や体験の展示・発表と、映画「トイ・ストーリー2」の鑑賞会が二回に分けて行われました。展示・発表では、講座の植物画、陶芸、紙手芸、園芸、野鳥に親しむ、折り紙、竹工芸で、同好会では水墨画、



パッチワーク、陶芸、木目込み人形、俳句、読書会、パンの花、手編み、皮革工芸、手作り人形、絵てがみ、絵画がそれぞれの作品を展示。どれを見ても力作ぞろいでした。来場者は、それぞれの作品を前に、しばし立ち止まっては見入っていました。映画は一回目、二回目合わせて千人以上の来場があり会場は満員になるなど、大好評だったようです。

公民館まつり二日目の三日は、展示・発表のほかに講座と同好会のステージ発表がありました。

ステージではオカリナ「ボコアボコ」、少女合唱団、コール有明、オカリナ同好会、混声合唱「筑波おろし」、ギター講座・ギター同好会、大正琴「のぎく会」、大正琴「のばら会」、太極拳、エアロビクス・ダンベル体操、和太鼓「夢ひびき」の皆さんが一年間の練習の成果を見せてくれました。中でも今年講座として新しく加わった和太鼓の生音がよい太鼓の音は、観客の心に強く印象づけられたようです。

公民館まつりの最後は同好会生による作品バザーが行われました。バザーが始まると作品はあつという間に完売し、公民館まつりは大盛況をおさめました。

生涯学習の中心的役割を担う公民館ではこのようにさまざまな活動をしています。皆さんもぜひ公民館を利用し、生きがいづくりにぜひご利用下さい。



須藤長江さんが 大阪府知事賞を受賞

柿岡の須藤長江さんが、第13回全国健康福祉大阪大会「ねりんピック二〇〇〇大阪美術展」の書の部で大阪府知事賞を受賞しました。同美術展では六部門が審査され、書の部には合わせて五百五十九点もの作品の応募がありました。須藤さんは「筆はいつも持つようにしています。入賞した書は百回は書きましたね。こんな立派な賞がいただけてとてもうれしいです」と話してくれました。